

大久野通信 vol.26

農閑期は繁忙期



大久野倶楽部の活動拠点は、西側の山が夕陽を遮るので 16 時前には薄暗くなります。秋から冬に向かうこの季節、里山はなぜか寂しい気分に包まれます。あらゆる生き物が活動を休むからなのか、静けさも増している気がします。一般には農閑期と呼ばれるこれからの季節は、雑草などに邪魔されない里山整備の繁忙期です。この間にどのような手を加えるかで夏場の風景が変わるので、それをイメージしながら土木作業などに汗を掻きます。創造的な活動がいよいよスタートです。

INDEX

- ・ 東京都に熊出没
- ・ この冬も竹炭作ります！
- ・ 今後の展望

東京都に熊出没

「東京都に熊！」と TV で話題になっていますが、大久野？楽部の活動拠点も東京都です。毎日のように熊出没情報が日の出町役場から配信されています。東京といっても大都市部は 23 区の一部です。残りは殆どと言っても過言ではないくらい野山が占めています。冬直前のこの時期、活動拠点では夏場に繁茂した雑草の草刈りが恒例行事です。庭や畑などは定期的に除草をしています、山の斜面や沢の畔などは手付かず、野生動物たちが身を隠す場所を提供してしまっています。自生植物のバールを剥いで本来の地形を明らかにすると新鮮な風景が現れて・・・遊歩道でも作るかなあ、と創造意欲が湧いてきます。



整備前の様子



整備後の様子

この冬も竹炭作ります！

地滑りなどの自然災害防止、害獣繁殖を防ぐなどの理由から荒廃した竹林整備は重要です。通常、伐採した竹はそのまま放置しますが、朽ちる過程で折角吸収した二酸化炭素を放出してしまいます。地球温暖化防止という意味では、伐採した竹を炭にして長期間カーボン固定させることで整備活動が完結します。現状、伐採した竹は山の斜面に整然と並べられたままなので、まずこれらを山から広場まで降ろします。これが結構重労働で、参加者を募ってイベント的に実施する計画です。運んだ廃竹は、1 m 程度に切断して乾燥させます。約 3 年放置された竹には雨水が染み込んでおり、切断すると黒色に変化した水が出てきます。当初は厄介者扱いをしていた黒い水ですが、分析しますとフミン酸に極めて近い傾向が見られることが判りました。どうやってできるのか、何かに活用できるのかはこれから検討していきます。地元消防に「消防活動に支障を及ぼすおそれのある行為の届出書」を提出したら、竹炭製造がいよいよスタートです。



野積みされた伐採竹



竹炭製造の様子

今後の展望

里山に携わる様になって、畑以外にも四季を通じて様々なやるべき「こと」があることが判りました。これらは里山を健全に保つために必要な仕事なのですが、都市の暮らしでは味わえない面白さがあるのも事実です。初心者であってもやってみると案外なんとかなるもので、肉体的な疲労と精神的な満足感が味わえます。やらず嫌いの方が、始めるとのめり込んでしまうゴルフと似ている気がします。ただ、ゴルフなどのスポーツは練習成果が必ず発揮できる訳では無い気難しさが有りますね。一方で、里山はかいた汗の分だけ成果が残るので、裏切られる心配が有りません。こういった懐の深さが有る里山での活動を通して、新たな可能性を探って盛り上げていきたいと願う、大久野倶楽部です。